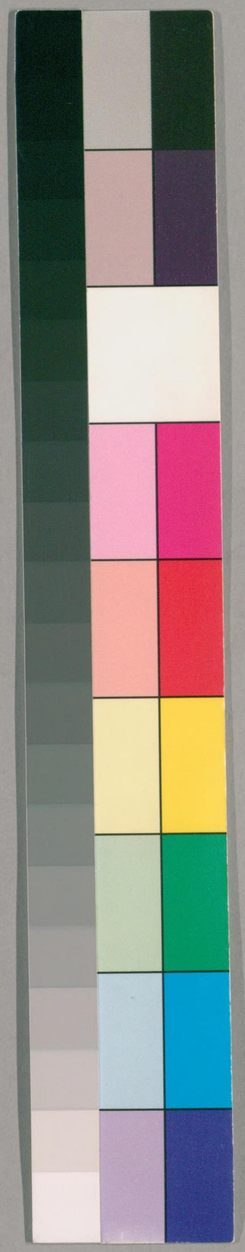
853
166

新拾遺和歌集

類 和歌
函號 二架 七八
書名 二十一代集
冊數 五六

第七一三號



国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

新拾遺和歌集巻第十一

戀一

伊勢

家

いとゝおもひそめてもかくしたゆたひ人ゝ

六 家

六 ゆくすゑのたのめもかなき身なれとも

中納言家持

人ゝ

六 はくさ葉にゐる露のきえなゝもとの

六 中將のみやをかけよと

笠女郎

六帖 雪の河社
中ゝとゝ
万葉
六帖 古歌
六帖 四季
のお良人もち
歌としつゝ
ゝ人ゝ
ゝぬ
ゝ
ゝ
歌のおゝ人のもとゝ
うけゝ人のゝ歌
ゝゝ
ゝ

古雜 忠岑
君ゝ代よゝ
ゝゝ
ゝ

国立国会図書館

周鰤院御製

寄烟戀といふことを

思ひおもふ烟やそらにたつらん

中納言入道前太政大臣

寄烟戀といふことを

人しれぬ思ひのみこそ夕ゝに

従二位行能

通肋法親王家五十首歌

人しれぬ心のうちにこめをきて

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

題しらず　後二位家隆

殿富門院大輔

題しらず　前中納言定家

百首哥たてまつりし時　従二位家隆

題しらず　後人名知らず

文保百首哥たてまつりし時　前大納言為世

月前恋　前大納言為藤

歌言おもひ

雪後旅宿　藤原為定朝臣

新元百首哥たてまつりし時　前大納言為世

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

若うけや若うけやせさこもれる
恵の今朝の
源氏物語

ちはやぶる神よありけん吉野川
古
流も清く澄みにけん
延喜十三年亭子院歌合
紀淑望

我神よありけん吉野川
いさぎよき瀬も淀もある世の中
大納言隆博

讀人不知

家六
淀川にすむ水鳥のなにとなく
立つ音さへぞ
古
すごくなりぬる

枕草紙 賀茂真淵

川の瀬は
古
せくもせきあへぬ
ものにぞありける

寛永元年百首
平常顕

神よあれ
恵恵の
世さかえ

遠智の淵

九條お内大臣家百首歌合

五治門院小宰相

[illegible]

恋久

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちつけよそひそめけん心の
嘉元百首奉りける時恋
せさらんをもことわりとおもふらん
それをたにもわびしくやとは
詠ぬ
一筋よさてせくとは初めなき神の
正和元年九月十三夜後鳥羽院御
中まゐる時又首奉りける恋
雲井年納言公雄
忘るる初もん神のそらごとを
賜姫三位局
思ふ人神もあはれと聞ばこそ
雲井法眼
尋えぬ跡
前大納言為定
絶ぬ間の深き契も神ぞ知る
年莫時
雨のうちの深き人乃初もみん
お茶談為嗣
なかなかそれ程ならぬ物をそ
法印定円
寄山恋
夕附日のり山ひけよ高峰
實治二年百首奉りける時寄
雲林院入道前左

拾

寄語恋

為通朝臣

いそのかみふるき人をもたつねこよ
せをへてもなほ恋しきに

恋の心を

古 ほ

恋しとも名をたつるかの袖ぬれて
いろにいでぬる物思ふ身は

恋過去

中宮内侍

源氏 葉子

源光明

平重基

前大納言為氏

為通朝臣

古 ほ

古 ほ

古 ほ

後拾

此歌八雑部ニ入

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

万葉家集万載

あひそめてうれしとものは人丸

春ふかみたれこめさせと梅が香を
千文百番の会よ　公部の元良歌を

ふかき夢のうき橋　権大納言公雄

文保百首の題をうつしまゐらせし時

百首歌たてまつりし時　権中納言公雄

古春上

藤原定家朝臣

まそかがみ

文保百首の題

人もとふ心のほどのしるべにて
文保百首の題をうつしまゐらせし時

うれしくの中にあひつる通ひ路の
古小町

寄夏恋

恋となれば夢のうちの面影
古

せきかねてうつつまぼろしわかぬ夜に
旅部　風景

権大納言公雄

かつやお買ちかみ
えこうこうくまやまき
ぬこちへちうり

[illegible]の[illegible]にてうたよみ[illegible]人[illegible]
[illegible]よりなまうら三首[illegible]

第久二年太神門院よ[illegible]
夜長増恋　前中納言定家

[illegible]の[illegible]の初[illegible]なくくみて[illegible]
建保六年内裏哥合よ[illegible]
[illegible]久秋恋[illegible]

きしもの家の夜をうくてもみ[illegible]

八条流高倉

[illegible]よ[illegible]ひ[illegible]の[illegible]

文保三年百首歌[illegible]時

正三位源教

[illegible]の[illegible]

[illegible]

藤嘗恋　[illegible]

[illegible]

[illegible]

新拾遺和歌集巻第十二

恋歌二

光明峯寺入道前摂政家の恋十首歌合

お大納言為家

寄雲恋

あふまての契もそらの雲ゐまて古
なをたのめとや月のいるらん

文保三年百首歌奉

権大納言実明

寄風恋

あふことの心よわくも吹風を
うらみてのみも夜をあかすかな

寛治二年八月関白前左大臣家歌合

祝部成仲

寄雨恋

ぬれてゆく袖のみ知れる夕暮の
雨にしられぬ恋もするかな

題しらす

ちはやふる神のいかきもこえぬへし
恋路に人のまよはさりせは

前参議教長

百首歌奉りける時寄雨恋

いつとなき袖のみぬるる雨の夜を
なにはの事と人はいふらん

入道二品親王性

寄雨恋

むさし野の草葉の露の消ぬまに
雨ふりそへて秋風ぞ吹

万代十

前大納言為家

寄雨恋

雨ふれは袖のみぬるる浅茅生の
小野のしの原しのふとも人

権中納言公雄

寄雨恋

ふる雨に袖のみぬれて明しつる
我ふる里の秋の夜の月

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

世伯うよ　赤染衛門

家 君かれの程へまあさ山風の寒からむ夜ぞ思ひやる　前大納言良教

寄霧恋

秋恋八草葉よりもろき露なれや思ひ初てし百合の下紐　式部卿敦

題しらす

しのゝめの人乃心ぬ霧のまに絶の入乃間こそ乱れ

寄橋恋の心を

雲間流水

恋しさの数のあさくも思ひけり百を一に　権大納言公実

まかくも思ふ人みなくにまち出のかつらの

加元百を一なりける時

秋中八首

秋下

秋風の吹ぬる人への衣をやうら

百十四　ふらん

権中納言実国母

山寺のかみの句ふ秋風に

古　河よそう金風よのうくあまの中に急ぐ

後冷泉院御製

あまそれをいかにとかよのうきめ海人

男もすくつてうちよせる
よせくるもの
人しれぬ心の内のむすびをも
たのしらする
念
珠
寄風門院
あまた人のもとをおとつれて
百十一
此ころ十こ夜ばかりに
ふみ人もを
藻壁門院但馬
寒浦百首の題
あまの釣舟
ゆくえ
波まかせ
やくしほの煙
秋のうら風
きえとまるらん
後拾遺四
やくしほの煙
秋のうら風
きえとまるらん
續古今雜中
もろ海士のたく
あしの
うらにもけぶりやたえ
む
玉葉一已出
あまをまつ須磨の浦をも
頼しらす
ゆくえ
あれもうらみぬ
くる
不寄
和泉式部
ふきの浦
末句詞書日記
支未二十四字大納言経信へ
神のうちたえやくこほりて
あまの事は町の浦のあまをとも
後
道暁法師
ふかき浦をいかてかわたらん
右近
浪深き流の橋は
乃命
恵慶法師
ふかき方をいかてかすきとおる

坂井兵部卿法印贈
百首歌奉りし時寄藻恋
権中納言時光
文保百首の時寄恋
前大納言為定
百首歌奉りし時 嶽西門院一條
前参議為秀女
須一らす

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

せうけいこうひつうたまふ

いそがしく紛乱なる細雨けふ
光明寺入道 お持設家五十首会よみ
基俊

洞院摂政左大臣

しづかなるこのごろ九月のつごもりに
かりそめのもみぢを折る下草と
頭一らす

後堀河院民部卿典侍

思へともえそいろのおひ生うつろひぬ
秋はてぬとや

紅月法師

紫の雲の上なるもとゝ
もゝとゝもゝとゝ
うしろもとゝ

枯そめる宿もをしへそつゝみける
いのこゝろよりたれ木の葉の山へを作ると

紀雲師

八条入道内大臣

秋はせて紅葉もみぢをいとゝ
ふかくそ人をおもふまー

三善為連

紅にもるひのゆふくへさへなりぬらん
依恩祈身

おもひのつれなきをなをうらみてぬ秋の夜ぞ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

百首歌たてまつりし時 寄杜恋

関白前左大臣

河面なる菊の花乃をりかけて

正和五年九月盡日後醍醐院いまさみこの

文とゝのまる時十首歌めしるふに見果遠山

法三位為理

きれゆく雲乃たえまより松みつれなき秋乃

夕風

権大納言為相

あの世をもこの世もかけて思ふ中ぬる夜

中納言為重

いさ給山中なる滝の音よ

人こゝ名をくちてこゝろ

こゝろをくだきてもの

あふことのたえてひさしくなりぬれば

恨しらす

権大納言為相

海士乃ゝみるめよそのゝ神のうら

藤原為信

おもふのみあやなき恋乃

おほ納言為兼

雪をうれをなこそ雲のみそめあふをといふくも
題しらず　　後二位為
おもふこころなのかよひもちふかき雪と
寄布恵とをよませたまふ　　伏見院御製
もろともにふむおいて秋春のさくひもつとけの雪
中納言匡房乃家の平合をよめる　　源人らん
春ふかき野もさよふかき雪のそやむ時なき

伊勢

新千載二巻

後撰

葉子

新千載二巻

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

寛元四年

承てみことの系いてみてる

小山判官

おたそく寒のまうけ

源頼康

うきよ我人もる事をかう

同意という事を

なうくてはるうさ世こみそ

たいら氏

れいぜいのうちわもうすお

世こ命あらん

野後撰巻二
右大納言実敦
うき人のつまうへ
ふるくいのちそ
とうといふ

前大納言為兼

ひふみやうれはも一つ

元亨三年八月大

人気をさんりて

ふまそいもそうけうれの

高氏とらんと

世うけて我さんうむひ

悪骨の中に

むくいあの世もうてや

源法師

前中納言隆長

おろかなる法

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

寒蓮法師

千人百首の会よ

伊勢乃海のふかくせよとひく演莽の根をさらすらん

建長二年寿福殿にて

冷泉為相卿

せきこむる山井の水のこほるまに

題しらず

永福門院

人もをれ心のうちもおなじ門

藤原敦経朝臣

くさぐさの花をうつせるさかづきに

百首奇をもつて時宗撰之

権案使実継

年をへて老をわすれぬ名取川

常陸

源頼康

ゆくすゑのうき名もながせ名取川

大納言有家

名取郭公

武蔵門院御匣

ほのぼのと有明の月の名取川

前参議為秀

祈らす　源朝臣

玉ゆらの神のまもりをそれまでは
　　ゆめ忘れじと祈るこころを

神さびにけり　　源宗于

百首哥奉りし時寄衣恋

ひとりぬる袂乃露のおもたきは
　　恋の数をや置てなるらん

　　曾禰好忠

いく秋もかはらぬ月を眺めつつ
　　後朝の袖に宿をかすらむ

　　後朝の心を

その時のなくさめやそれ

新拾遺和歌集巻第十三

憲誉二

百首御会中に

旅おもふ我をいさめも垣衣
頭もる
まで人もこまぬよろづ代の

古 ろ

おく霜やふる世そ

恋山賊の千首会

おなし御会

お大納言為家

お師つ入道お同

後撰巻四

平ちかきそいつこそ
るもの段のうこそこん
ともおもうこうもと

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

源俊世

[illegible]

[illegible]

権大納言長雅

後照念院関白前太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題不知

[illegible]賀茂祢久

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法眼酬流女郎人丁代

待恋のかな　入乃親を尊道

なのめこうさ俤をとうもあいもなこもろ花の色か

浄妙意関白前右大臣

たりうます

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

古

遠夜鈴音

嘉元百首　寄雪

中納言為方

風雅巻二

持大納言資明

あおまてもなくさも地を仮のの記世をかた泥うひ
れん
私え面そ今の手
ちされなたのまもう仮
待恋のふをまみ分
幾秋まて約あ色そ
恋のふを
いつまてさお秋あまと招
拾
大発心塗物
廉仁王
如雄法師

ひろものむまき秋のつりまみつる
程律師則祐
いつもちをふそものむ多約をふくさめん
お中納言基成
あつらす
ひろふのそこを探一夕古神まるなるのう
陽よ内親王
さうと毎ゆあをすくのむひやるん
お大納言忠季
恋今年よ
たのそもいてとやよのまれ多ないく分うめる
花園院御製

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

その人さかりも侍りしかば、
年中絶言の相
そうもかさもあってたのむ
お大納言為世卿よりすゝめ給ひて
初恋
頼阿法師
更あらそふこゝろにこたへさりける
お元百首の時初恋を
照慶門院一条
逢ても猶よはのつゝみやまだあらん
夏如百首の中に
もろつのくるまの音

後
云々
云々

今更とへむあくるよりも
法眼昌琢
更ふりそめしものおもひ
関白おなじ
家の恋を
百のさゝめごとくちうんと思ふ
右衛門佐忠朝
寄月恋
うき人のあけてたのむ
淳仁天皇御製
これきりとそれとわかるたのめ

前前納言為定

こよひみしひかりを神のまもりにて
　　宵のまに我さす人のあやまちも

大納言顕実母

君ゆゑに人をいとはぬ心にて
　　思ひのつもるほどぞ知らるる

源信武

お中納言雅兼

文保百首に寄月述懐

ながめこしそらもかはらぬ月かげに
　　身のうきやまの名をぞとどめん

源師光

春水鏡恋

雪とのみ花ちるころはみえながら
　　なほうらさむき春の水かな

高階重直

柞のこずえもゆるかぜのまに
　　大納言長経

あふ坂の関の清水に袖ぬれて
　　君が心の底ぞすずしき

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

そもそもくらの翁そもわれ人をも海ぬめくの
現とも夢とも世をそむく身に
奈良法師基氏
えのこれあるもとて別
入道二品親王
百首の中に祝の心
権大納言義詮
題しらのあけがたの心よみ侍ける
悪敷の中よ
前左兵衛督盛徳

後猿楽二よ番
右京よりも
仲文と右京と
おりうもものん
つるふ

そのつらあひうら夏も笑ゆけ
藤原惟憲
霞あけぬ朝よの里めり郷
右京よりひつそ
藤原仲文
花もうくひて別あるま
後朝恋の心を
前左兵衛督源盛
ふれもと契もけも秋川のいろ乃底ハおきそもまも
千五百番合よ
醍醐入道前参改官
あひそもおまん人ハけきのおそれ神

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

[illegible]人の七月の夜さて初治して
[illegible]
七夕の此日別[illegible]神[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

兼好

暁別憲乃心哉
面影を淀のよどもの月もとも人のおもかげ
頭しらす

前中納言基隆

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

家系不載之作者也
すべて作者の位よ
こうもってうかがうべし
のちの世にもよく
名のつたわる作者は
那位であるかという
ことを中心として
二条院讃岐
いよいよ人こそ
もってし

佐三位為経

弘安元年百首奉りける時

花山院前右大臣

ふる郷のうら葉のうもれ
猶もくもいとゝみれて秋ぞしらるゝ

二帖五葉

右歌おもき景文多くよりてつくれり
つゝみもらしの意にやとぞおぼゆる

前権僧正

つまでこそ心をこめめもりおかん
道ある門歌を

ふれ
ふれ
ふれ

前中納言定家

文治百首入道前関白家の歌合に

寄雨恋

いつせんうへに沈む恋ぞ
恋の奇特に
あひそめわたる袖の濡るゝ

後鳥羽院

契絶年恋といふ心を

深りぬ夢の秋かぜ月乃ほりるようにて今ぞ
百首奉りし時寄弓恋

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

新拾遺和歌集巻第十四

寛平四

亭子院の御時に

うつろはむ事のかなしくありければ

入道二品親王通覚家

前中納言定家

ふるさとの花の梢もみ雪降りて

霞こもれる春の夜の月

藤原雅経朝臣

思ひつつ古ふる郷を来てとへば

荒れたる庭に春ぞ残れる

花園院御製

うつろひし一枝の花を名残とて

守る夢路の

大納言師賢

ゆくともまたも来ぬ秋のあるものか

惟喬親王の御事もて一枝をたてまつりて

前中納言資平

うつろはでとどめてもがの山ぶかみ

後西園寺入道太政大臣に送られて

まがき山辺

中納言為相

うき世をば越えぬと思ふ逢坂の山も身をやかくれ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

家持集　六帖

おもひやるこほろの後もの
事しるくもふるさとを
うぬまもるものを

六帖第二　園

ふるさとの後もの心
乃後もあらんとうつ
くよりつもるあさも
夕ゐの物おもふ

百首家集六帖第二義

今のこもいまをたこひを奥山の岩松苔生ひて久しき物を

中納言家持

坂上大嬢

百　ふるさと人に公　万

ふるさとの後もの山もおもかげに
六　千万

遠し

中納言家持

(一)後も山のちもあらんとおもへども
ちいさんこつつ
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)

中納言兼輔

(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)

大和物語

たき物のうつりがにほひて
過ぬる後
おもそうつりをおもひたのうつ
当
たりうす

三条右大臣女

平政村朝臣

康資王母

きぬぬぎて事うるに敷恋
恋の心を
伏見院御製

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

なかの
雪のあけそめしあしたのむら
雲をいでて今や猶なるみちのおく
古

百首歌の中に　寄雲恋

遍昭

ありそうでなきこのかよひ路をたのむれよ人のうれふる

寄雲恋

源兼氏朝臣

なびくものそむ世のなかもせばいかばかりうれしからまし

寄雲恋

右無論者為遠

遍昭朝臣

ありそうでなきこのかよひ路をたのむれよ人のうれふる

寄雲恋

源兼氏朝臣

なびくものそむ世のなかもせばいかばかりうれしからまし

寄雲恋

右無論者為遠

遍昭朝臣

約関門流拾河

雪のあけそめしあしたのむら雲をいでて今や猶なるみちのおく
古

百首歌の中に　寄雲恋

遍昭

水まさりて　岸の松
光明寺より入道前摂政
お中納言宗
行水の　古　流れもしあさみのうつりやそさ
百首哥よみし時おなし
前大僧正覚
うつり行くきよきなかれや　古　とゞまるらん
人丸
万十一　古
ます鏡　たゝ
六　いもをおもみ　めとのの
小町

家
つたへ　つもれ
草紙　つまむ
万十一　古　已上家
きの出てわくの清乃三見
六　建長元年五首哥
讀人不知
彩雲　新院おはします一條殿の桂瑞
こいしねとそゝのみ池の深くらく
おもふ事をも
ほり通せる井水の
深くらく家和
二條院讃岐
いつしきの浪のあらひそめしより
沖津白玉
万十一　古
これを見むをみるの
浦とてよ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

百首の歌よみ侍りける時雪の歌

中関入道前太政大臣

初瀬川古みわひんとたのめのしめのうへに
恵の雪は降かさねつゝ

寛平后宮

我こゝやくめらの橋もくちぬらん
今いくよをかへてわたりみん

源和義朝臣

岩そゝのたき井をうつす秋もなを
頭しら雪

源基清

今いくよみのそらかけてふるさとの
宿中納言実直母

秋の雪をおふと云ふるされる歌也古

恵ひろき心なりけるおのこ世とゝもに
百首歌の中に恵の心を

前大納言為氏

さらに又おのれなほれる古そてなるゝ人をこそ恵
今も何ぬ迷ふ

恵慶井

忘れぬ我心ひとつにあけくれの
夜並前内大臣

恵ひろきものむつましてやうつる
なを人を忘れぬる

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

いたらくつをれんとさよふかく

みもこゝろのそこにこそ我もせくくるうぐひすの

春の夢地

夢とこそ思ふもむすくらの

心ひ我よ志ろくさむ春をさにゆるさぬ我まよ淺の

貞和二年七月七日仙洞にて三首の一うた

よりきろよ過不逢恋とのかこと

源和氏

平敦盛女

沙彌法名

大蔵少輔家

万代集十八雜五哀傷

おほ納言忠良

按察使實継

やそふとむすかうまぬめんみ淺ちくさ春れ逝なん

題しらす

ふかせんかう春夜も郭公古我ぬ我うへ

正治二年百首のなかに

惟明親王

あまの春ま我に床のうへ淀そわそうつくる

百そ歌めさ拂ほいくよ春枕

沙彌

ちくさりさうれ袖を、かさりも我をいつけの枕るねを

後嵯峨院大納言典侍

たらちねのこひしきつまもふるさとやとをくへだてて人のこひしき

こころとてもろともみすてつれなくもおもひたえぬるかたみとぞなる

恵慶法師

ふるさとの花のしたかぜ吹きしよりあとなき庭に春ぞくれぬる

前大納言為世

今こやとまつにかかれるさくらばなちりのまがひにうつろふ色を

源高秀

ふるさとを恋ひわびぬれやどりせしかりねの床に夢をだにみず

永福門院内侍

ふるさとの春の夜ふかき月かげに昔をしのぶ袖の露かな

式乳門院御匣

あすまれと祈りしほどや今さらにかりそめならぬ秋の風

源仲教

祈らすも

なほそのかみとうらむれあり

前参議定家

かりの人のこころもおもひ知れ秋風うきあふさかの関

古

寄草恋といふことを詠ける

権僧正果守

洞院摂政家百首の中に心をき

古

正三位知家

百十

おもひつつ思ひ絶えなん時の後

おもひんを

思ひさる風絶えまがる夕ぐれを

亀山院御製

古

年頃久絶えて後のおもかけに

とおもひ

古

大和物語

あふ事のおもかけをのみ恋ひ渡り

思ひ絶えんと我いさおもひそのうつり

お中納言季雄

古

月ごろもうき人ゆゑに思ひ絶えし

宮の内侍

村雲の空の月もある物を

お門大臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

（エ）

ものつゝ思ひもおいられと契りまくの月やみるらん

山路入乃おもひ出ある家十首

秋夜

月ぞさやけき雲けなきやうふく月乃さやうさ我袖る

顕仲納言女雅

いつれをも立もとゝめぬ雲乃月ふく風乃男しき文をうらめしてゐたり

秋夜

江侍従

うらかのつゝ小萩乃露乃里まてなくあり

結度おもひ出ある三

法眼行乗

とゝまりぬ人のかりねの草枕おもひ出ぬる秋乃夜半哉

暁

こゝろをも尽すつゝ

拾

こゝろをも尽しき人のつゝ

てゝこゝろ

しられ

文屋女乃いつ

ゑ

ふ

ひ

ひ

ひ

後
わぶこひしゆきて
やうやうつもるを
てものそ浦の
もつよ

伊勢

こうみくくる
もるこうめ
るとをそ
てつく

万葉 古捉繁貫
とわきこうの
八橋ちう二梶しかき
まくらくるう両
まとこうつくろと
もつくくるう
繁貫とうもきし
わくと

古
よいくよめきくる
めるのもくく
とくあみのまく

さ衣かけるれまくもいくる
おもひ心を
月夏にをれる衣の久もあ
夏の井よ
ふりれ人しをる海そのあ
遠祖門流

己心流前松改左言

駒覚法師

かさねくもるれ中れさ秋衣
文保三年百首
秋寒深為實
秋をそれくるさうそのやれ秋ハ

十首歌合 久戀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光明峯寺入道前摂政家十首 会二月比
人にさそはれまゐりて
文保百首 雪

ふりつもる雪も今はたえぬ宮木野の
洞院摂政左大臣家百首 雪
を
もの思ふ人のさとまでふりつもる
伊勢 百首 雪
我ゆくへ契ありてもたのまれず
今そう記うる契ぬる後
中園入道前太政大臣
御製
お天納言室教
後源華院前内府
後醍醐院御内侍
文保百首 雪
後醍醐院御製
拾遺 夏 外上
私の日もの忘れ人のきさらぎやうくうつろひゆくそでも

頭不知

[illegible]

契約等無

[illegible]

貞和百首歌

等持院贈左大臣

宣暁法師

[illegible]

文永二年四月廿[illegible]

[illegible]

[illegible]

言はえのさ行神乃源
正和五年九月すゑ
つかた時大首歌
めされきる月お恨
前関白左大臣
えぬうこのたにふるん
後醍醐院みこのみ
前大納言経継
おもひそうこそ月よめる神乃
お天納言為定
乃源さくるみまも
人の我世をうらみ
前中納言資明
もし月乃源さくるみまも
人をうらみ
恨ふえぬ源さそうち河
恨人をの心を
をの字をたのまもせいさ
乳しらす
うみさもをそさる海
貞和百首歌
今出川院
古
中納言為相
恨ふえぬ源さそうち河
恨人をの心を
をの字をたのまもせいさ
乳しらす
うみさもをそさる海
貞和百首歌
今出川院
古

法皇御製
中園入道前太政大臣
お大納言公蔭
山階入道前太政大臣
源公信

文永七年八月十四日奉
前大納言為世
寄花恋
前大僧正慈鎮
後深草院少将内侍

[illegible]

うるへき事をとうへの局にて
[illegible]

石山寺にて[illegible]その下の葉に
中務宮家歌百首 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新拾遺和歌集巻第十六

神祇哥

獅子の松よやとろますゑつゝ
山ふかく藤の岩根春日永
久しき時詣宮ゐやまし
後の世のかたさへ絶ずおそれ山
静かなる御廻廊寺秋當解却されて
夜の法を権現ぞ終夜行道しける
若宮のうち宝殿のうちも澄せ玉垣
とをん

[illegible]の[illegible]ぬ年月を、[illegible]
法華経悪逆久元年日吉の千僧供養
の導師の賞を仁和寺海恵律師よりて辞
ながら修ること久しく乃海恵律師よりて辞
若一王子ふたゝびまでとゞまるべきよしを
よみて奉りけるに
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西宮記臨時二博日本紀
博士六例 延喜四八二日
依 宣旨左中弁乃明
大史阿保経覧宣行
事鋪設饗事仰所司
大臣以下預講席者
出祿
日本紀慮討測等
乃字号たゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

まゐりのぼりの
延長六年日本紀竟宴奉恩為
阿保経覧
二位家
源為氏朝臣
万十二
催馬楽
遠智川流

九重の梅　さきて今日いまも　秋なほはるる雲のうへ人

元弘三年立后屏風　右近権中将藤原朝臣

貞和二年百首　前大僧正

石清水八幡の月やにうつるらん　秋の行くへを人のとふまで

権家先吉祥院

梅薫夜風

三代の位をうけて石清水　秋行くあとを時しれつつ

法皇書清

石清水うつる流の松いかに　秋なほ残る峰の白雲

賀茂絶久

天乃原三代おさめて今もなほ　秋のうるほひ雲までも

法皇雲深

ふるものの心を君の垂迹と　神代も今の世も同じ秋

法皇深深

ほの世も此世も神も同じ秋　なほ万代を祈らんや

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

うへの秋神山のもみぢ葉
　　　　従三位教久
寄月神祇を　　平行氏
ちりさの久しき世ももみぢ葉の
　　月の神さへ添やそふらん
等持院贈左大臣
　　源和義
　　寄神祇
いつまでか神もうけひくみてしの
　　やうこまでそなほ思ふ
　　神祇祝　　従三位氏久
万世と君のいのりて神山の
　　神やうけひくみてしの
　　神祇を　　前参議長雄

みてし山ふもとをめぐる清滝の
　　水上遠き神路なりけり
　　中院前右大臣
　　寄月祝頌
豊明節の松も秋ふかき
　　月影待つ夜ぞ千代もへにける
　　前参議教長
ことしより二葉もそへつ春日山
　　おほ納言経房
春日社にこもりて大将の事祈りそめ
　　侍ける時
つげの枝も
　　三条入道前内大臣
三笠山ふもとのさとをそことなく
　　神のめぐみの家ゐ見ゆらん
山ほとゝぎす
　　前大納言為家

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

神祇部紀氏

神うさに出代おき海上を行ふ舟と
白山まうで頻行ふ

よもやまの雲井の山ゐそ
あれ百首哥なり時神祇を

和哥の浦まむひろ人へきみしの
お大納言為世卿清滝の行そ会しの
なり時 従四位行皇太后宮大進清原
はま雨通

神祇部

万十三

なり社教部卿
三條実美公

なり社教部卿
三條実美公

なり社教部卿
三條実美公

秋夜

おきそめきのふの人もあるものを我をかれやはつる
たまくらす

三源入道おもひ給へ

あきやあらぬ人袖をしぼるらん我のみ物を思ふ秋の夜

権大納言義孝卿

源直氏

わすれのみつもりや袖のあさからぬ一夜の松をしるべに

権大納言長家

ふりにけるよはひのしるしあらはこそ君が千歳のかずもしられめ

権大納言師房

長元四年九月上東門院の御ものの所の
ありし
家と三十一廿五首を見
のとき

後朱雀院御時やまと絵のゑ合はべりけるに

権大納言隆国

前中納言定家

平政村朝臣

いく重よろ祢のまおれなりあそ

祢祇　前中納言為相

あ尚一のふるうのも四まや住吉の神

住吉社奇合和歌　従二位行権中納言藤原守国平

君うめもそのさーよ祢うさんれまへ也もふ

祢衆を　小弁

あさうう産火のまへ乃衆のうとふをみくや祢もやん

金葉新下雑冏

天川ちうちうろろ
きさこうさをゆうさ
つまたれみうちを
うさ

玉藻ゆ天玉ちろ
うろろもみふうま
うあうさや

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

853
166

3238

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用